

調査報告

長期アウトカムに関する調査報告

早期離床の効果は、ICU 在室日数の短縮やせん妄の発生率減少など、短期的アウトカムについてはその根拠が証明されてきた。近年では、退院後の長期アウトカムへの影響が話題となっている。今回、長期アウトカムの記録についてアンケート調査を実施したので報告する。

方法

調査期間：2018年10月14日～2018年10月30日
調査対象：日本離床研究会教育講座の参加者アンケートの回答308件

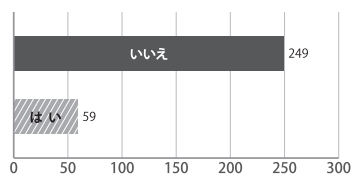
対象職種：看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・介護福祉士

調査方法：質問紙法

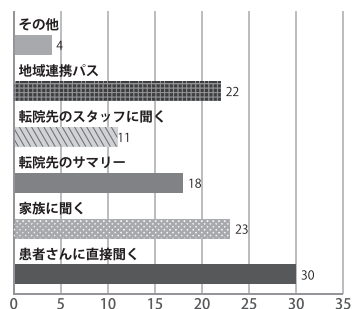
●設問

- Q1. 長期アウトカムを記録していますか？
Q2. 具体的にどのような方法で長期アウトカムの情報を得ていますか？（複数回答可）
Q3. どのような長期アウトカム情報を収集していますか？（複数回答可）
Q4. どのような理由で長期アウトカム記録をしていないか教えてください。（複数回答可）

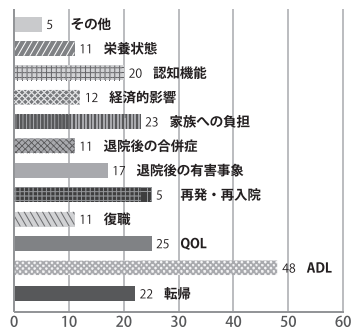
結果



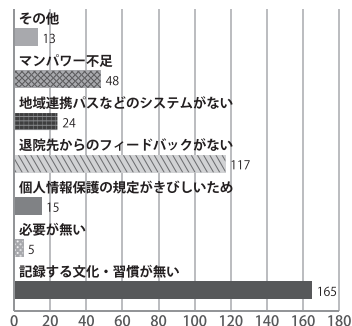
結果1 長期アウトカムを記録しているか



結果2 どのような方法で長期アウトカム情報を得ているか



結果3 どのような内容の長期アウトカム情報を得ているか



結果4 長期アウトカムを記録していない理由

考察

結果1より、長期アウトカムを記録していると回答したのは少数であった。結果2より、長期アウトカムの情報は患者・家族による聴取が多かった。結果3より、収集内容は、ADL、QOL、再入院や転帰など社会的項目が多く挙げられ、機能レベルでは認知機能が多かった。近年、急性期のせん妄による認知機能アウトカムの関連が報告されている¹⁾。その一方で、記録していない要因として結果4より、記録する文化・習慣がない、退院先からのフィードバックがない、が多数であった。地域包括ケアなど、システムは構築されているが、情報共有という面ではまだ連携に課題があると考えられる。

文献

- 1) Girard TD, Thompson JL, Pandharipande PP et al. Clinical phenotypes of delirium during critical illness and severity of subsequent long-term cognitive impairment: a prospective cohort study. *Lancet Respir Med*,6,213-222,2018.

著者情報：飯田 祥* 黒田智也* 土屋 研人* 曷川元*
*日本離床研究会 学術研究部